特別講演

12月18日(金) 10:05～10:50

障害福祉分野における メンタルヘルスロボット・パロの 活用事例



講師

国立研究開発法人 産業技術総合研究所
上級主任研究員　柴田 崇徳 氏

略歴・活動実績

1992年名大院・博士(工学)
1993年通産省工技院・研究官
95-98年MIT AI Lab.研究員兼任
01年産総研・主任研究員
09, 10年内閣府参事官(情報通信担当)付及び社会還元加速PJ(在宅医療・介護担当)兼任
2013年～現職。パロの研究開発と社会実装。

講演概要

アザラシ型ロボット・パロは、身体性人工知能(フィジカルAI)の応用で、日本では「福祉用具」として、介護テクノロジーの重点分野「認知症生活支援・認知症ケア支援」の「選定機器」第1号となり、補助金の対象となっています。

海外では「医療機器」として、多くの臨床試験が行われ、パロとのふれあいによる気分の向上やストレスの低減、不安・痛み・抑うつ・興奮・不眠等の改善などが示されています。

障害のある方についても、同様に短期的な行動・心理症状の改善が期待されます。さらに、セラピストの介入により、パロのお世話や他者とのシェア、ロール・プレイなどを通じて、社交性や社会スキルの向上を支援することが期待されています。

会場：東京都立産業貿易センター台東館 6階